

86.解答 a

- a. 正
- b. 誤： ^{99m}Tc -GSA はアシアロ糖蛋白受容体に結合する。
- c. 誤： ^{99m}Tc -DMSA は静態像、分腎摂取率の定量のために用いる。GFR 算出は ^{99m}Tc -DTPA を用いる。
- d. 誤： ^{123}I -IMP は脳血流検査に用いる。
- e. 誤： ^{123}I -MIBG は心筋交感神経機能、副腎髄質腫瘍、カルチノイド、甲状腺髄様癌の局在診断に用いる。副甲状腺の描出は ^{99m}Tc -MIBI、 $^{201}\text{Tl}/^{99m}\text{TcO}_4$ -サブトラクション法を用いる。

87.解答 a、b

- a. 正：検査前にヨードを摂取すると、甲状腺の機能が十分に評価できないため、施設によって異なるが約 1～2 週間のヨード制限食を必要とする。
- b. 正：体内にヨードが過剰に存在すると、放射性ヨードが甲状腺に十分とりこまれなくなるため、施設によって異なるが約 1～2 週間のヨード制限食を必要とする。
- c. 誤：ヨード制限は必要ない。 γ 線核種なのでヨードブロックも必要ない。
- d. 誤：ヨード制限は必要ない。 β 線核種なので検査前にヨードブロックをしたほうが望ましい。
- e. 誤：ヨード制限は必要ない。

88.解答 c

- a. 正：細胞におけるアミノ酸代謝を計測する。
- b. 正；細胞におけるブドウ糖代謝を計測する。
- c. 誤：脳血流製剤である。
- d. 正：乳がん、副甲状腺腫瘍、抗がん剤による多剤耐性腫瘍の評価などに用いる。
- e. 正：肺腫瘍、前縦隔腫瘍の鑑別、異所性副甲状腺の検出などに用いる。

89.解答 d.

d は Tc 製剤同士なので、同時収集できない。
その他は核種が異なるので、2 核種同時収集ができる。

90.解答 e

- a. 正：脳血流製剤であり、てんかん焦点は集積が低下する。
- b. 正：中枢性ベンゾジアゼピンレセプター分布をみており、焦点は集積が低下する。
- c. 正：ブドウ糖代謝をみており、てんかんの焦点は集積が低下する。
- d. 正：脳血流製剤であり、てんかん焦点検索に用いる。

e. 誤：用いない。

以上、解答 86～90 は菊川 薫会員（藤田保健衛生大学）